

東北大学-RIETI共催オンラインシンポジウム:人生100年時代のサバイバル・ツール—
ニューノーマル時代における「ウルトラ高齢社会」

超高齢社会下での ニューノーマル社会 —新型コロナウイルス禍の経済社会的総括—

<WEB揭示資料>

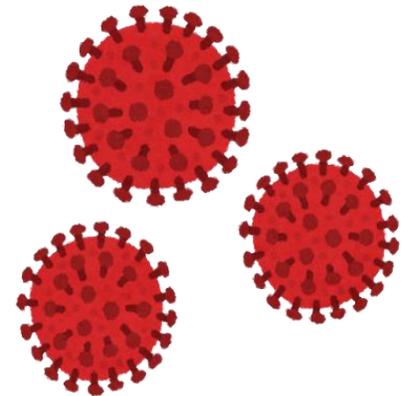
東北大学経済学研究科 教授

高齢経済社会研究センター 吉田 浩

hyoshida.econ@tohoku.ac.jp

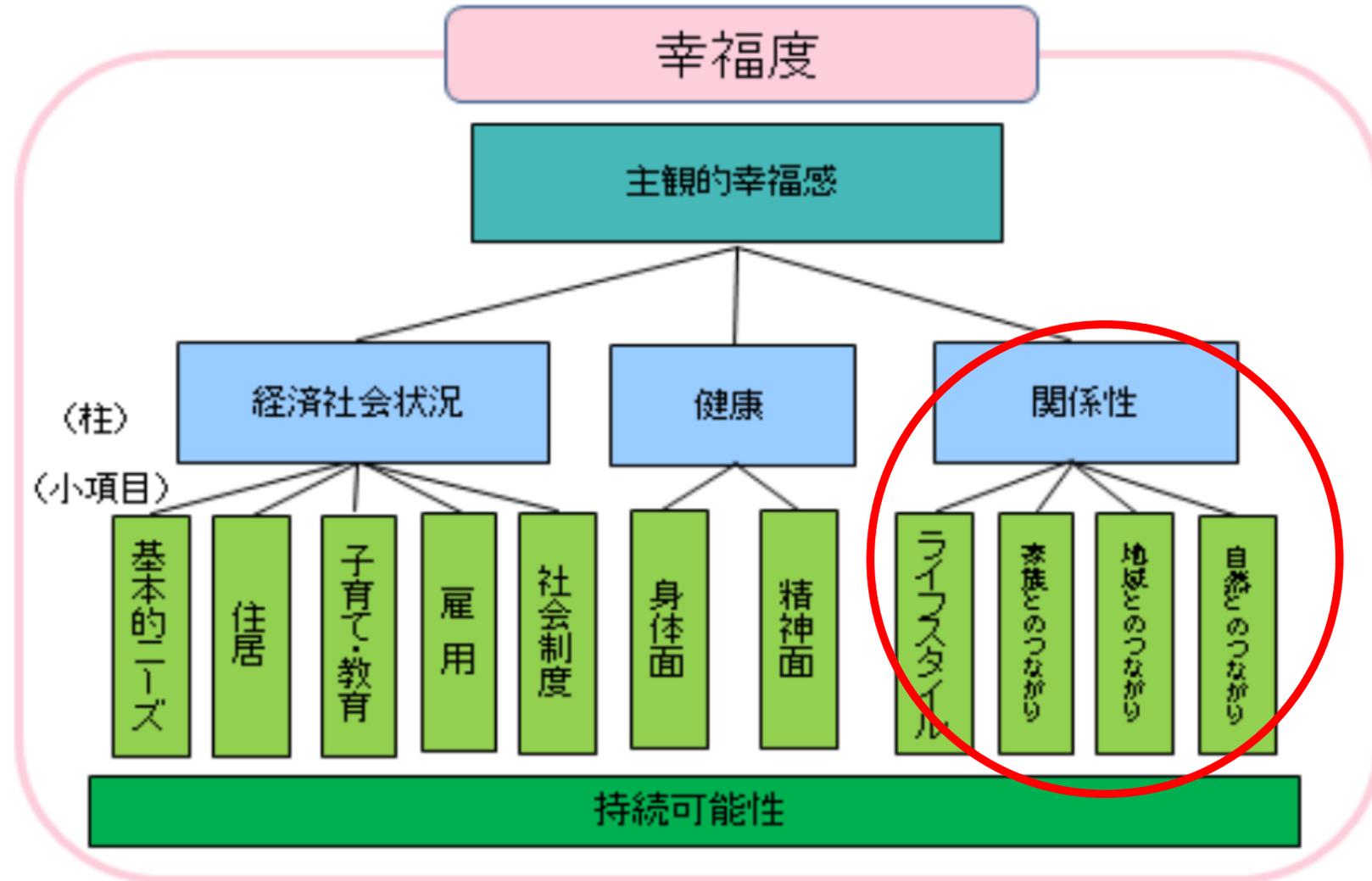
2つの衝撃からのサバイバル

1. 人生100年といわれる時代で、最後まで充実して
生き残る
2. コロナ禍の中で、ウィズコロナ、アフターコロナを生
き残る



100年寿命で個人が直面するもの

1. **健康**: 65歳女性が100歳迄生存確率は14%(2040年; 将来人口推計予測)。しかし、基礎疾患がコロナのリスクを高める。
2. **経済**: 100歳まで生きる資金2000万円問題と逆に資金を使い切らずに死ぬリスク。
3. **余暇**: 幸福の第3要素「社会的関係性」(時間の使い方)
 1. ケインズの予言(1930年)「孫の世代の経済的可能性」
 2. コロナ在宅勤務で都市部は2時間は浮く



幸福度に関する研究会報告 — 幸福度指標試案 — 平成 23 年 12 月 5 日 (内閣府)

100年長寿で企業が直面するもの

1. **雇用**: AIにとって代わられない仕事の1位は？
(「雇用の未来」byオズボーンら(Oxford))
2. **事業継続**: 接触80%ダウンでも、GDP打撃は2割だった理由
は？
3. **サービスと女性**の視点: 男女共同参画社会の経済学的根拠

THE FUTURE OF EMPLOYMENT: HOW SUSCEPTIBLE ARE JOBS TO COMPUTERISATION?*

Carl Benedikt Frey[†] and Michael A. Osborne[‡]

September 17, 2013

Computerisable

Rank	Probability	Occupation
1.	0.0028	Recreational Therapists
2.	0.003	First-Line Supervisors of Mechanics, Installers, and Repairers
3.	0.003	Emergency Management Directors
4.	0.0031	Mental Health and Substance Abuse Social Workers
5.	0.0033	Audiologists
6.	0.0035	Occupational Therapists
7.	0.0035	Orthotists and Prosthetists
8.	0.0035	Healthcare Social Workers
9.	0.0036	Oral and Maxillofacial Surgeons
10.	0.0036	First-Line Supervisors of Fire Fighting and Prevention Workers

実体活動と価値の分離でコロナを乗り切る

実体	価値
<ul style="list-style-type: none">• 集まること	<ul style="list-style-type: none">• 意思決定をすること
<ul style="list-style-type: none">• 書類を渡すこと	<ul style="list-style-type: none">• 情報を伝達すること
<ul style="list-style-type: none">• 教室に集まること	<ul style="list-style-type: none">• 知見を伝授すること
<ul style="list-style-type: none">• 銀行に行くこと	<ul style="list-style-type: none">• 決済をすること

リモートで代替できた

サービスのセンスでコロナを生き残る

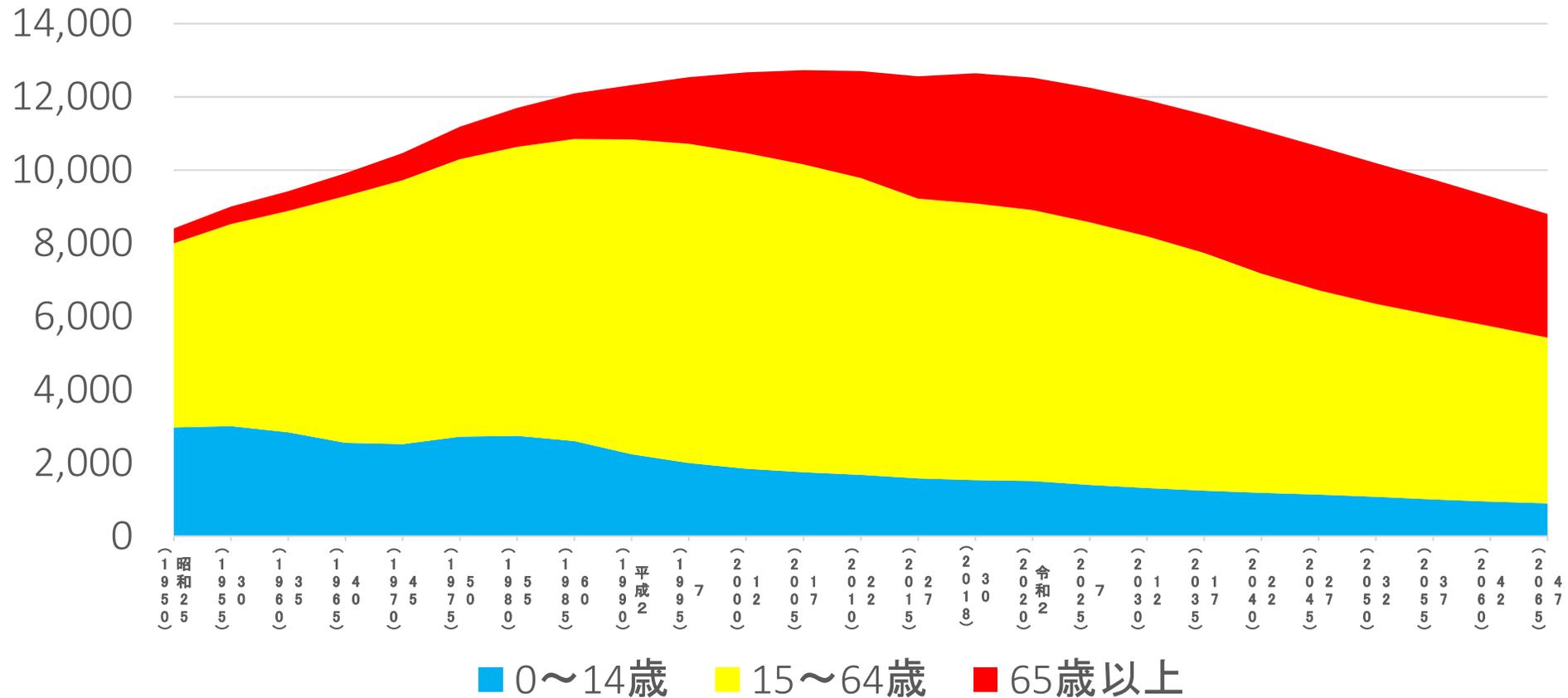
	1955	1970	2018
第1次産業	21.8%	6.4%	1.2%
第2次産業	31.4%	46.4%	26.6%
第3次産業	47.1%	47.2%	72.2%

コロナ下の日本経済(GDP)はサービスが70%以上、サービス産業は女性就業比率高い。

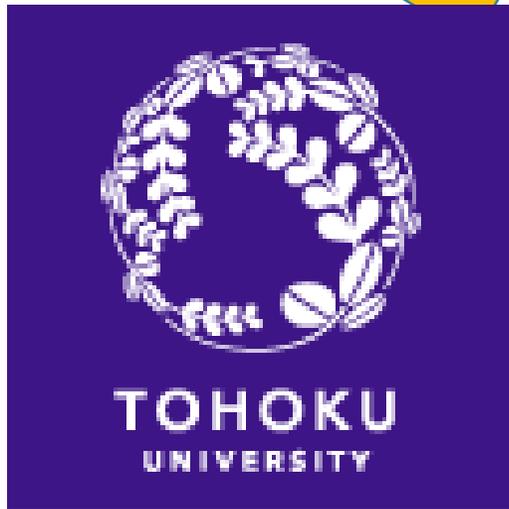
100年長寿時代の大学の課題

1. 超長寿社会；少ない労働者で高齢者に対応
2. これまで：知のモノづくりから
研究室の中の技術を社会実装（シーズ→ニーズ）
3. これから：知のバックキャストイングへ
将来の問題から現在開発すべき知見を定める
（ニーズ→シーズ : ソリューション）

高齢化の推移と将来推計



2015年までは総務省「国勢調査」、2018年は総務省「人口推計」(平成30年10月1日確定値)、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果。



未来からの挑戦：
バックキャスティング

社会保障支出
倍増200兆円

896都市
消滅？

100歳以上
50万人

ソリューション：未来を変える研究

100年長寿時代の政府の課題

現在の社会保障の基本は「国民皆保険」達成の1961年体制に継ぎ足しで運用

1. 1961年当時の寿命は65歳（男性）
2. 高齢者だけでなく支える世代への対応
3. 100歳寿命時代の100年年金の課題

令和元年簡易生命表 (単位：年)

和暦	男	女	男女差
昭和22年	50.06	53.96	3.90
25-27	59.57	62.97	3.40
30	63.60	67.75	4.15
35	65.32	70.19	4.87
40	67.74	72.92	5.18
45	69.31	74.66	5.35
50	71.73	76.89	5.16
55	73.35	78.76	5.41
60	74.78	80.48	5.70
平成2	75.92	81.90	5.98
7	76.38	82.85	6.47
12	77.72	84.60	6.88
17	78.56	85.52	6.96
22	79.55	86.30	6.75
27	80.75	86.99	6.24
28	80.98	87.14	6.16
29	81.09	87.26	6.17
30	81.25	87.32	6.06
令和元	81.41	87.45	6.03

注：1)平成27年以前は完全生命表による。

2)昭和45年以前は、沖縄県を除く値である。

厚生労働白書

前象
と地立

1973(昭和48)年
第1次オイルショック、狂乱物価

1961(昭和36)年
国民皆保険・皆年金
の実現

1965(昭和40)年
1万円年金

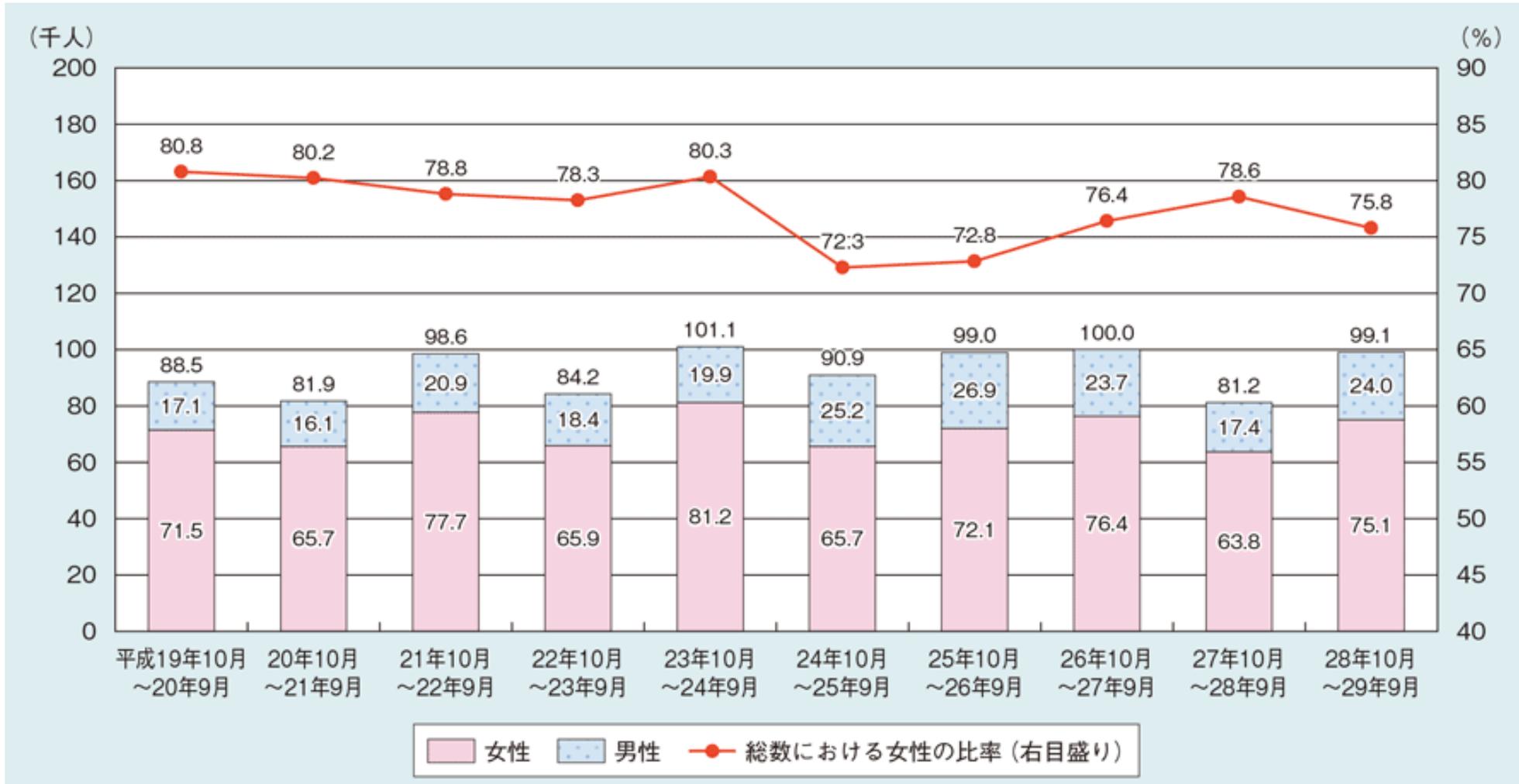
1968(昭和43)年

1982(昭和57)年
老人住居
(一部老人住居)

1984(昭和59)年
健康
(本)



家族の介護や看護を理由とした離職者数



令和2年版『高齢社会白書』より転載。原資料；総務省「就業構造基本調査」

希望
出生率
1.8

GDP
600兆円

介護
離職
ゼロ

公的年金は本当に大丈夫か

	令和元年 検証報告		平成26年 検証報告
最高ケース	ケースI		ケースC
所得代替率	51.9%	>	51.0%
給付水準調整停止年度	2046年度	>	2043年度

吉田 浩第77回日本財政学会報告(2020)「令和元年年金財政検証報告の再検証」

所得代替率、51.9%で安心か

所得代替率

$$= \frac{\text{高齢者夫婦2人受給年金額(税込)}}{\text{現役所得1人分(税引後)}}$$

国民年金法 附則第2条の要旨

- ① 年金の給付金額は、勤労者の手取り収入の50%を確保します。
- ② 5年おきの財政検証で、次の財検検証までに給付が50%を下回るときには**制度改正**します。
- ③ その時には、給付及び費用負担の在り方について検討を行い、**所要の措置を講ずる**ものとしします。

(附 則 (平成一六年六月一一日法律第一〇四号))

まとめ：コロナと高齢化の課題

1. 我々は、超高齢社会での「**これまで経験したことのないような**」**寿命**の過ごし方に悩むことになる。
2. コロナの中で事業継続をするorできた知見は、超高齢社会で求められる「**より少ない労働者でより多くの生産を**」に通じる。
3. 大学は「先に知識アリ」の組織から、「**先に課題アリ、そのソリューション**」として知識を使い、知識を創る組織へ。
4. 政府は現在のままの延長線上では、実質的に**超高齢社会に耐えられる社会**を作れない。